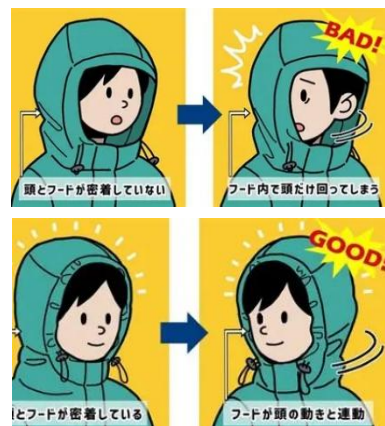


雨の日の自転車利用



雨の日の自転車走行は、晴れの日に比べて路面が滑りやすく、視界も悪くなるため、より慎重な運転が求められます。特にレインウェアを着用して走行する際には、扱い方ひとつで安全性が大きく変わります。

雨を防ぐためにフードを深くかぶると、左右の安全確認がしづらくなり、周囲の歩行者や車両の発見が遅れるおそれがあります。視界不良の状態で行った場合、道路交通法の「安全運転義務違反」を問われる可能性があります。首の動きに合わせてフードが動くタイプや、透明なツバ付きのレインウェアを選び、視界を確保しましょう。



ポンチョやロングタイプのレインウェアは、裾が車輪やチェーンに接触し、巻き込まれる事故が発生しています。裾や紐は短く束ね、車輪に触れないようにしましょう。また、前かごまで覆うロングポンチョは、風にあおられて裾が舞い上がり、視界が遮られることがあります。強風の日には使用を避けるか、セパレートタイプのレインウェアを選びましょう。



傘差し運転は絶対にしないでください

片手で傘を持つ「傘差し運転」は、道路交通法に定められた違反に該当します。両手でハンドルをにぎりましょう。



雨の日は、マンホール、白線、側溝の金属ふた、濡れた落ち葉などが特に滑りやすくなります。急ハンドルや急ブレーキは避け、慎重に通過しましょう。

雨の日は周囲から自転車が見えにくくなります。昼間でもライトを点灯し、自分の存在を周りに知らせましょう。

雨の日の自転車走行では、「濡れないこと」だけでなく、視界の確保・交通ルールの遵守が重要です。安全なレインウェアの使い方にも心掛けましょう。

